



# デジタルライフライン全国総合整備実現会議 スタートアップワーキンググループ 第2回

2023年12月



## 第2回スタートアップワーキンググループ（SUWG）で御議論いただきたいこと

- デジタルライフラインの全国整備により、Society5.0の実現並びに社会全体のDXをスピーディーに実現するためには、**先導技術を活用したプロトタイプ開発や事業化に強みをもつ**スタートアップの参画が重要。
- 第1回SUWGで頂いた御議論を踏まえ、単なるビジネスコンテストの実施にとどまっていたら、スタートアップの参画促進には繋がらないと認識。最終的に、ビジネスコンテストを実施するとしても、まずはデジタルライフラインについての情報発信・広報活動が必要だが、従来のような政府による一方的な情報発信では、政策全体の意図を十分に伝えることが出来ない。
- 第2回SUWGでは、スタートアップの参画を加速させるための施策イメージ（事務局案）をお示しするが、政策の方向性とスタートアップ・コミュニティの活動を同じ方向に向けるための機会とさせていただきたい。**具体的には、これまでの御経験に裏付けられた事務局案への御意見を頂くとともに、スタートアップの積極的な参画に向けて御協力いただける部分について御提言いただきたい。**

# SUWGの背景・ゴールと、第1回SUWGにおける議論の振り返り

## 背景

- ✓ デジタルライフラインの全国整備に向けては、デジタルライフラインを活用した**多様なサービスを加速的に拡大する必要**。
- ✓ スタートアップ（SU）は、**開発・事業化におけるスピード感が速い**ことが強み。

## 第1回SUWGにおける御意見

### ユーザー企業目線でのデジタルライフラインへの参画に際しての要望事項整理

#### 全般

- ✓ デジラインへの参画企業が大企業やそのグループ会社だけに閉じない仕組み作りが必要。
- ✓ 協調領域は、長期的投資が必要かつリターンが少ない領域であり、あと押しが必要。
- ✓ PoCから事業化が壁であり、資金・人員・技術提供をお願いしたい。
- ✓ 地域連携のためのコミュニティが必要。スタートアップ企業に限定せず、デジラインを活用する自治体への積極的な誘致を国が働きかけてほしい。
- ✓ SUが比較的弱い、知的財産保護やレピュテーションマネジメントを行ってほしい。

#### 個別の施策

- ✓ デジタルライフラインを活用したサービス事業化には、大企業が保有しているデータの開示・整備が必要。
- ✓ コミュニティの情報発信を通じてエンジニアをインフラに作る側に呼び込むことが可能ではないか。
- ✓ 技術とビジネスのコンテストを混ぜてやることは避けるべき。
- ✓ 物理的な施設・インフラの前段として仮想環境を提供することで開発側の要望・要件の洗い出しが可能ではないか。

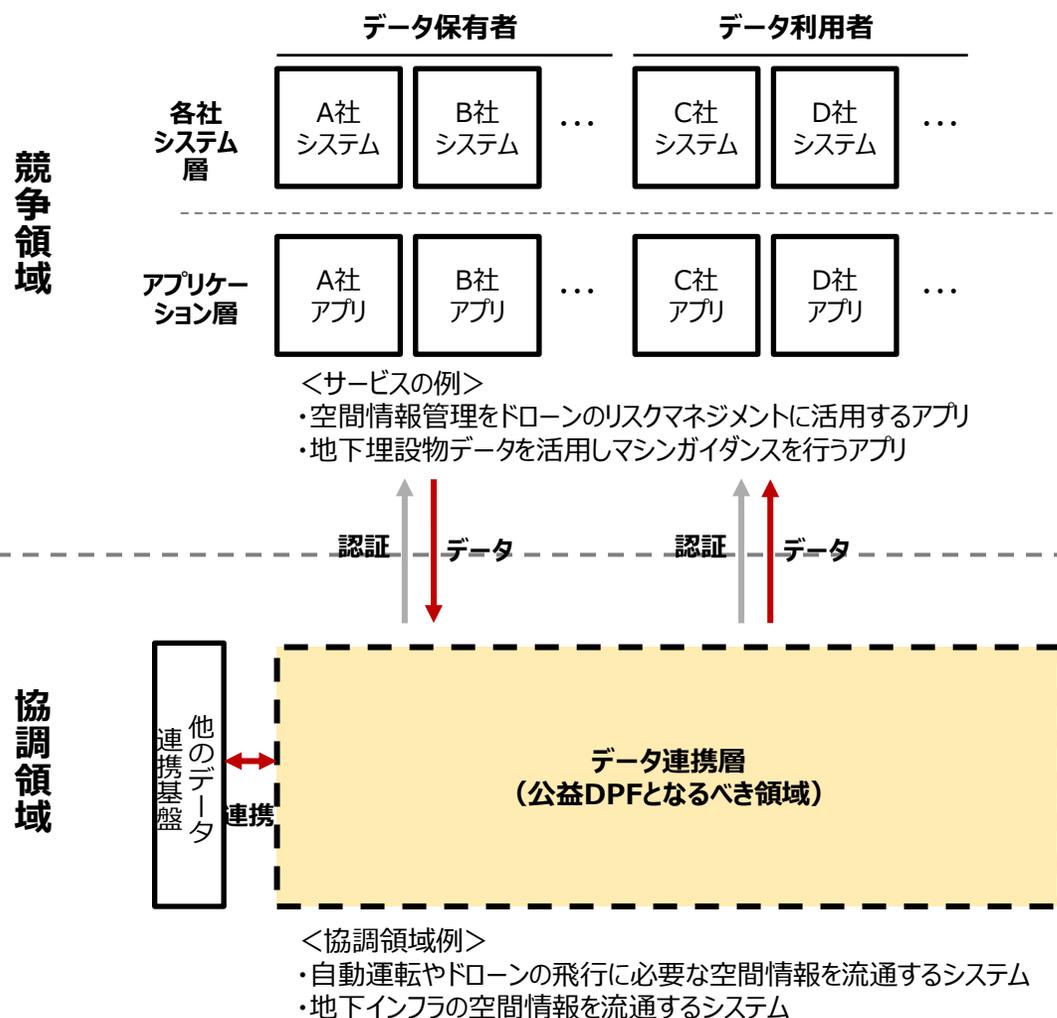
## ゴール

- ✓ **デジタルライフラインの設計や、デジタルライフラインを活用したサービスの事業化に対して、スタートアップが積極的に参画できるようなエコシステムを構築する。**

# デジタルライフラインの全国整備に向けたスタートアップへの期待

- 第2回アーキテクチャWGでは、社会構造の変化が速いデジタル時代において、各民間事業者の取組や施策に重複が生じている領域や、各社が協調して取り組むべき領域を「協調領域」として整備する必要性を説明。**協調領域と競争領域それぞれで、大企業のみでは成しえない要素が大きく、SUの活躍を期待。**

## システム設計図における公益DPFの位置づけ（イメージ）



## 競争・協調領域におけるSUへの期待

### デジタルライフラインを使う

#### 大企業だけでは成し得ない要素

- ユーザからフィードバックを受ける機会が少ないかつ限定的。
- ユーザ視点からずれたサービス実装（プロダクトアウト）を進めてしまう。



#### SUへの期待

- ユーザ目線での高速なフィードバックが可能。
- マーケットインの発想で、ユーザーに合ったアプリ・システムを提供。

### デジタルライフラインを設計する

#### 大企業だけでは成し得ない要素

- 発注者-受注者間が複雑化し、プロトタイプ開発までの期間が長期化。かつ、重厚長大な機能が実装されてしまう。
- プラットフォームの運営にあたって、大企業間等の既存の関係に縛られてしまう可能性がある。



#### SUへの期待

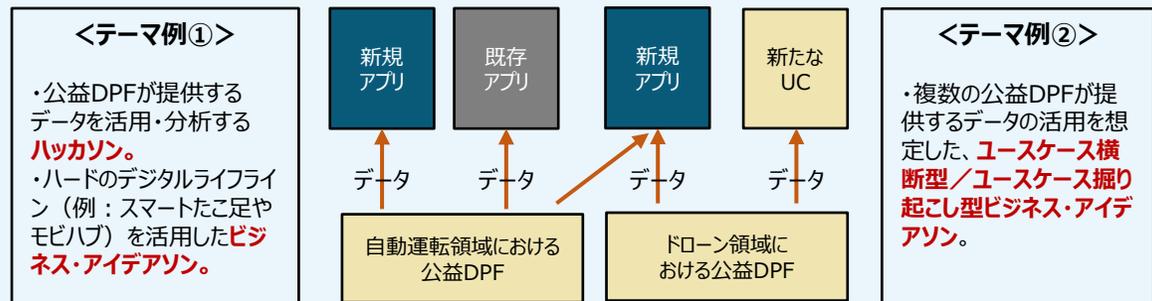
- 成果物のイメージが作業員まで直接届くことにより、迅速かつアジャイルなプロトタイプ開発・提供が可能。
- 特定企業の色がついていないスタートアップは、公益性が求められるプラットフォームの担い手として期待。

# デジタルライフラインを軸としたエコシステム形成の将来的な全体像(仮説)

- 既存のエンジニア/スタートアップコミュニティと連携しつつ、競争領域におけるサービス事業化や、エンジニア/スタートアップと協業した協調領域設計に繋げるエコシステムを形成する。SUWGでは、既存のコミュニティとの連携や情報発信機会の充実に取組みつつ、将来的にはウラノス・エコシステムの一環として、競争領域や協調領域における協業も進めていく。

## ③競争領域活性化のための新ユースケース掘り起こし

- ✓ 既存の枠組みに囚われない、デジタルライフラインを活用したサービスのアイデアを募集。
- ✓ 机上検討だけでなく、具体的に動くシステム・アプリの開発やアルゴリズムの設計。
- ✓ 参加者のインセンティブ設計や、PoC実証で終わらせないための仕組み作りが必要。



ビジネスコンテスト等への参加

## ④SUの強みを生かした協調領域の設計・開発・実装・運用

- ✓ アーキテクチャ設計を実装するための実証事業への部分的な参画。
- ✓ 実証事業で開発したOSS等の定期的なメンテナンス等への参画。



協調領域に関心のある者の参加

## ②既存のコミュニティを活用した、潜在的なデジタルライフライン関心層の拡大

- ✓ 水面下に存在している有力なSUやエンジニアを関心層に引き上げ。
- ✓ 協調領域の設計・開発・実証や、デジタルライフラインを活用したサービス事業化等には関与しないが、実証事業の紹介やビジネスコンテストの実施等、関心層で居続けるための仕組み作りが必要。

積極的な情報発信  
社会全体へのPR

無関心層から関心層  
への移行

将来的に必要な領域  
SUWGで取組む領域

## ①既存のスタートアップ・エンジニアコミュニティ（デジタルライフライン無関心層）

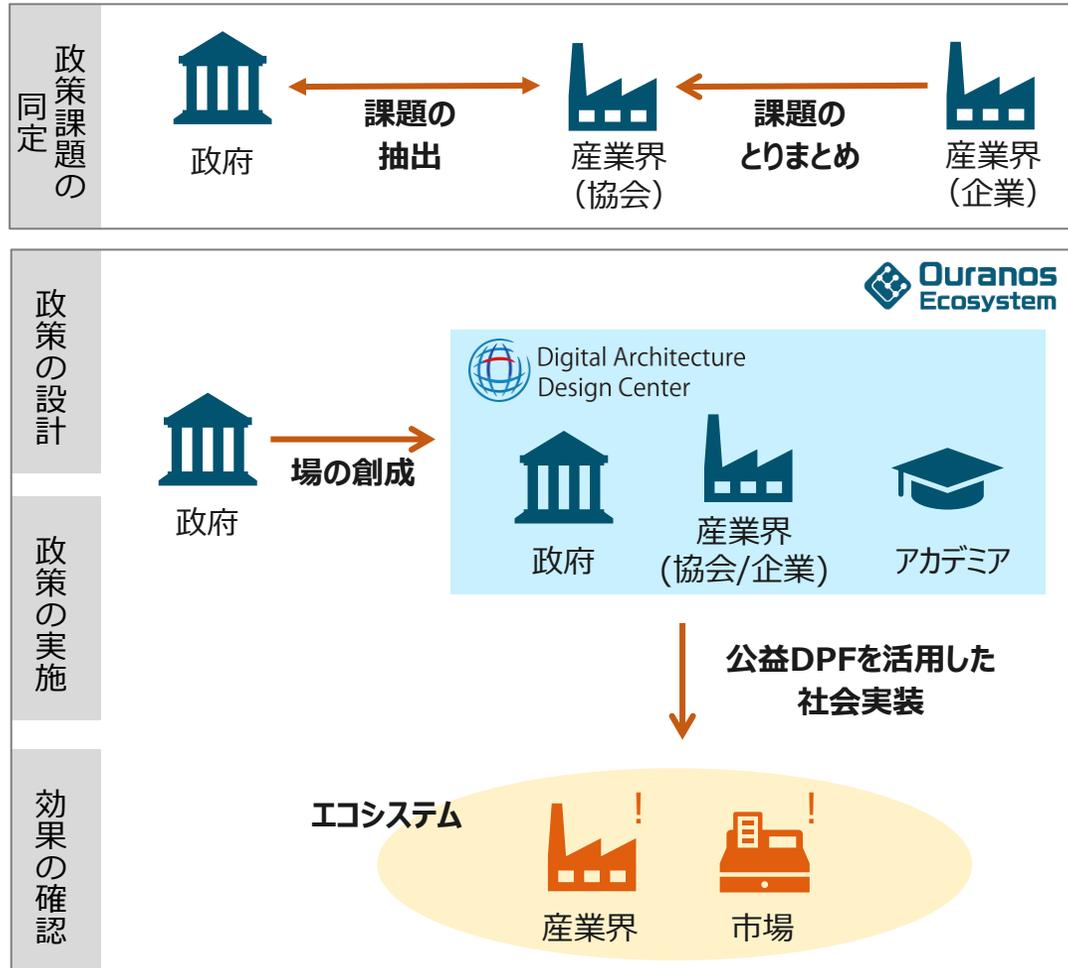


NEWS PICKS | STATION | AI

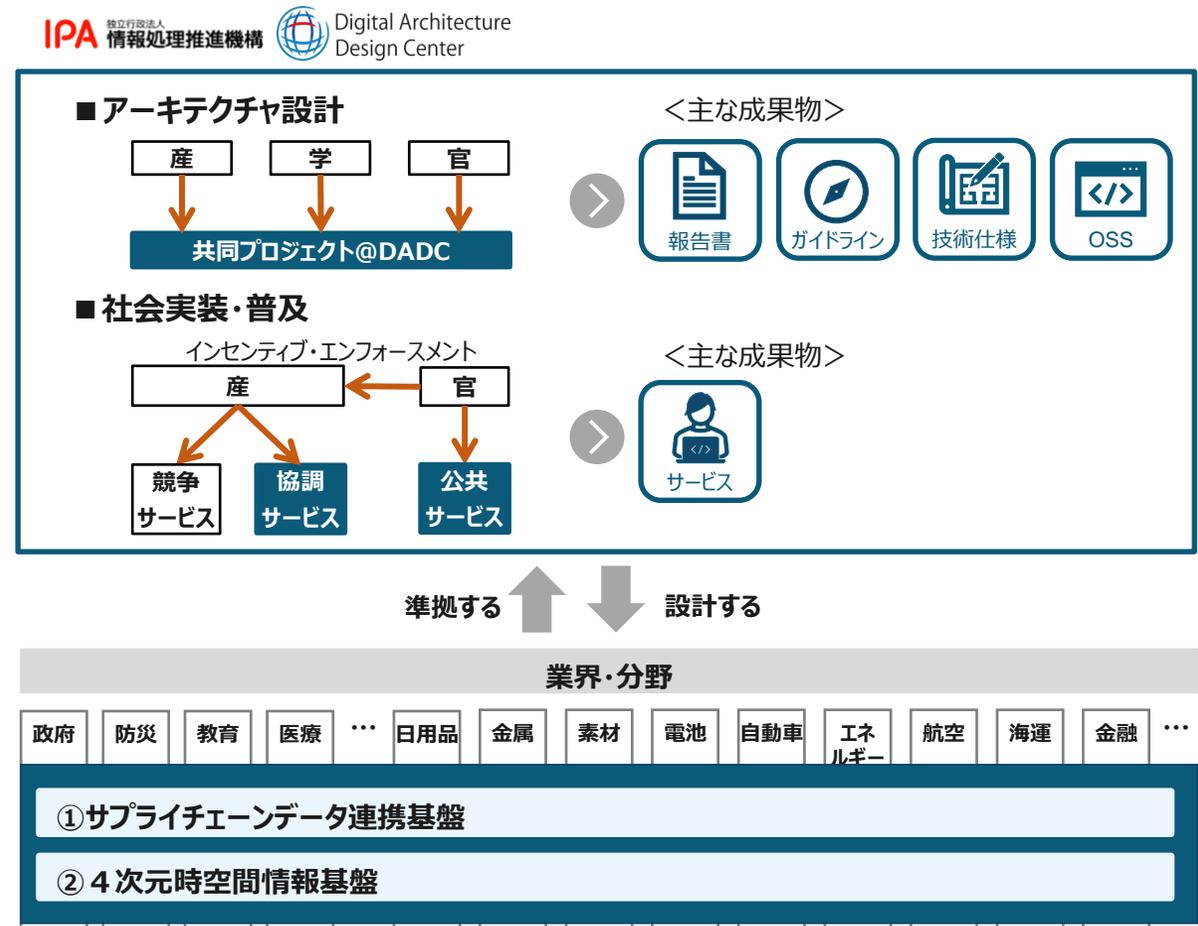
# 既存のコミュニティを活用した潜在的なデジタルライフライン関心層の拡大(仮説)【As-is】

- デジタル技術特有の「想定外」への対応には、官民が一丸となった、スピーディーな意思決定と政策推進が不可欠。IPA/DADCを官民連携の拠点として、産学官から専門家を結集させて政策の立案（アーキテクチャ設計）から展開（社会実装）までを一気通貫で実施している。
- **積極的な情報発信や、社会全体へのPR機会が不足**していることで、一部の関係者の理解が得られないまま取組が進んでいることが課題。SUを含めたエコシステム形成にあたって、この点がボトルネックとなる可能性。

## スピーディーな政策課題解決のための官民連携拠点の組成



## DADCにおけるアーキテクチャ設計とその社会実装



# 既存のコミュニティを活用した潜在的なデジタルライフライン関心層の拡大(仮説)【To-be】

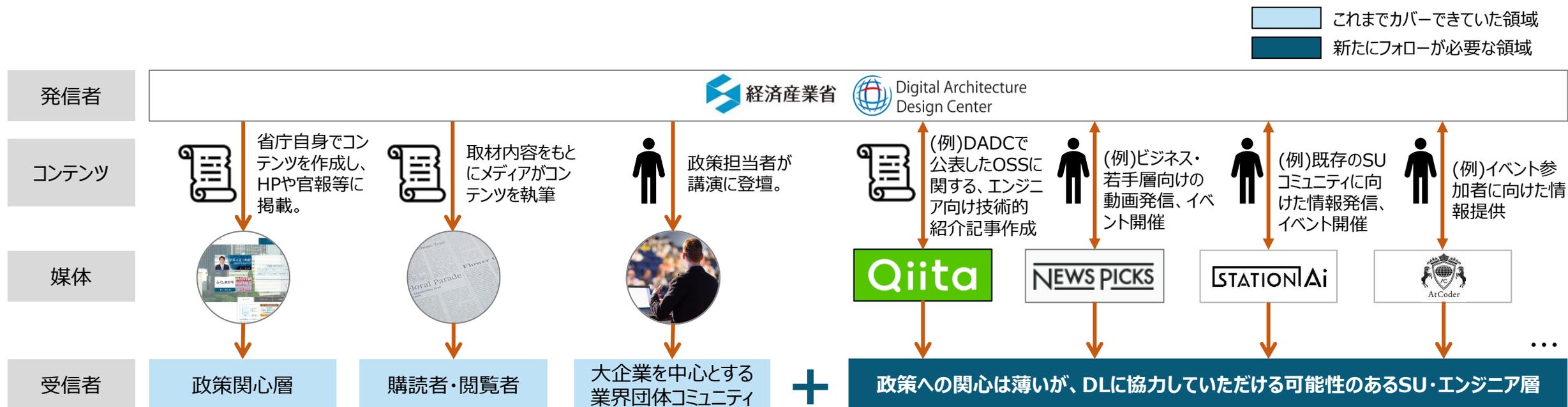
- コミュニティ形成にあたっては、**既存のスタートアップ・エンジニア向けのコミュニティ・メディアを活用した、潜在的なデジタルライフライン関心層の拡大に注力**する。

## 従来の情報発信手段ではアプローチできる層に限界

- ✓ 従来からの政府や行政機関による情報発信（例：新聞や雑誌、省庁HP等）は、情報量が大量かつアクセシビリティが悪い等、政府のロジックに基づく一方的であるケースが多い。
- ✓ 政策への関心が薄い、デジタルライフラインに協力いただける可能性のあるSUやエンジニア層等に対しては、従来の情報発信手段ではアプローチできない。

## 既存のコミュニティやメディア等と連携して潜在的な関心層を拡大

- ✓ SUやエンジニア層をユーザーとする既存のコミュニティやメディア等と連携し、新たなビジネスやユースケースの掘り起こしにも有効な、双方向な情報発信を目指す。



政府のロジックに基づく一方的な情報提供だけでは、関心層を増やすことは難しい。

既にSU・エンジニア向けのコミュニティを形成されている企業の方々と協業した、双方向的な情報発信が不可欠。

# つづく、つながる。

## デジタルライフライン全国総合整備計画

このまちで営んできたくらしが  
いつまでも安心して続く、希望に溢れた未来へ繋がる。

このまちのくらしが好きだ。  
大切な人々との営みが、希望に溢れた毎日が、いつまでも続く。

自分が住んできた愛着のあるこのまちで、これからも楽しいくらしが続く。  
ライフステージの変化があっても、しなやかにみずみずしいくらしが続く。  
新しく移り住んできたこのまちで、一生安心安全なくらしが続く。

このまちのくらしに胸が弾む。  
時間や場所にとらわれないくらし。希望に溢れた未来へと繋がる。

どんな時も、自分の生活に必要なサービスに繋がる。  
どこにいても、離れていても、全国津々浦々へ繋がる。  
だれとでも、もっと簡単に、もっと気軽に繋がる。

わたしたちのくらしが、もっと楽しく快適に。  
そんな社会を可能にするデジタルライフライン。

